

会員のば

車の色は？

札幌市医師会
中の島ただ眼科

竹田 明

2005年、15年乗ってきたM社製の3000CC 4WDの黒のセダンの愛車が壊れた。前年の夏のある日にはクラッチが滑って3速に入らずゴルフ場にタクシーで行き、また冬のある日には交差点で信号待ちの時、エンジンが止まり立ち往生、直前に給油したガソリンスタンドに助けを求めた。コンピューターが壊れていたようだ。長年乗ってきて愛着があるので、何とか修理したものの、9月の車検更新はどうするかと考えるようになっていた。当時M社の4WDセダンはもう少し小さい車種しか作っておらず、同じ車種の製造は中止していた。雪の多い北海道の札幌では、4WDは一度乗ってしまうとFFやFRには戻れない。4WDと言えばH社のSが有名であるが大きいセダンは無かった。トラックみたいな4WDはM社でもT社でもN社でも販売していたが、セダンはN社のFしか販売されていなかった。海外の車は眼中に無かった。

7月のある日、近所の居酒屋Jで飲みながら、車を新しくしたいことを話していたら、カウンターの端で飲んでいたT社にお勤めのTさんが「自社で10月に新しいサービスシステムのセダンを発売する。とにかく何でもする。面倒な手続きやタイヤ交換はもちろん、定期検査、事故処理やトラブル処理、不案内な土地での誘導・ホテルの予約やお勤めの飲食店の案内等、いろいろなサービスが受けられる。しかし少々お高い。今私が乗っている車と同じくらい大きさで4WDもある」と教えてくれた。更にカーリースというシステムも教えてくれた。かなり心が動かされた。

車検が近づいてきて何かを選ばなければならなくなった。T社のLとN社のFが候補に挙がり、試乗して操作性や居住性、カーリースの条件等を比べた。甲乙付かず迷ったが、「何でもするサービス」の一言が決定的になり、T社のLに決めた。

Lの最初の車種はGS350で、FRとAWD (all wheel drive) があり、AWDを選んだ。車体の色は落ち着

いたシックなダークグリーンを選んだ。運転操作性、居住性、シートの座り心地、安定性、静寂性は申し分がない。多様なサービスに満足した。

あっという間に3年近くが経ち、車検が近付いた。車検を更新してあと2年間同じ車に乗るか、新車にして3年間乗るかを判断する時が来た。リースの料金は1ヵ月に数千円の差しか無いので、新車で3年リースを選んだ。今の車種で性能には特に不満は無かったので、同じ車種の新しいモデルにした。色はどうでしょうか？ 今はダークグリーンで、とてもシックで落ち着いているが、汚れは目立つ。白やシルバーは、車は目立つが、汚れはあまり目立たない。赤は素敵で黒は重厚だが、やはり汚れはかなり目立つ。しょっちゅう洗車が必要だ。カタログや、色見本を見ながらどうしようかと迷っていた。

あれこれと悩んでいたが、ある時、行き付けの飲み屋Hで年齢の話になった。その亭主と私は同い年で、30年来の付き合いだ。お互い、年を取った、再来年は年男だなどと言い、それを酒肴にしながら飲んだ。酔っぱらって家に帰ると、次の車検までに還暦が来てしまうことに気が付いた。そうだ！ この際だから車の色も思い切って赤にしよう。今時赤いちゃんちゃんこに赤い頭巾は流行らないが、若い頃にはとても乗る勇気の出なかった赤い車も、今なら良いのではないかと気付いた。色彩に関する仕事をしている家内にその話をしてみると、「そうしてみれば」と案外簡単に賛同してくれた。カタログや、色見本を見直してみると、真っ赤ではなく深みのある赤で、なかなか素敵だ。さっそく赤に決定して注文した。1ヵ月半ほどで車が届き、赤色の外観を見ながらドキドキして乗ってみると、車内は予想に反し普通の感じで、抵抗は無い。運転席からその素敵な赤色が見えるのは、ボンネットの一部とドアミラーだけで、あまり緊張せずに運転できた。当時は赤い車はほとんど走っていなかった。還暦を迎えた年、運転手本人の中身はどうにも変える術がないので、車の赤い外観に何とかコーディネートするべく、ジャケットやコートなど衣類の色を選んで楽しく運転していた。

2018年、あれから3台同じ色の車に乗ってきたが、最近同じような赤色の車が増えてきたのを感じるようになってきた。9年前には珍しかったのだが、L車5台目の今回は、現在走っている車には無い、もう少し明るく、少し変わった色を選んでみた。古希まで2年、新しい色の車でどんな生活になるのか楽しみである。